

啓成地区 福祉のまちづくりプラン

情報共有

方向性

個人情報の把握と共有

- 課題
- 自治会内の世帯状況の把握が課題
 - コロナ禍で近隣の様子が分からない
 - 自治会員同士のコミュニケーションが少なくなっている
 - 高齢者の情報把握が難しい

取組内容

地区全体で情報共有についての協議の場をつくる

5年後の目標

各自治会で情報共有が進む

方向性

関係機関と地域との情報共有

- 課題
- 不審者情報が分からない
 - 学校と地域住民との情報共有ができていない



取組内容

学校と地域との情報共有の促進

5年後の目標

学校と地域との情報共有が進む

方向性

防災防犯

災害時の避難準備

- 課題
- 地区内の避難場所や避難経路が分からない
 - 災害避難への意識が低い
 - 「避難指示」で動いてもらえるか疑問

取組内容

啓成地区
安心安全
マップの作成

5年後の目標

安心安全マップが完成し、
全戸配布できる

防災意識
向上のための
啓発活動

5年後の目標

防災意識を
高めるための研修・
訓練をする



方向性

防犯意識の向上

- 課題
- 人通りが少ないなど危険な場所がある
 - 不審者が出没している
 - 高齢者が多く、振り込め詐欺にかかりやすい

取組内容

不審者
対策のための
啓発活動

5年後の目標

あいさつや声かけを通じて
地域の防犯力を高め、
明るいまちにする

特殊詐欺
防止のための
啓発活動

5年後の目標

特殊詐欺の被害ゼロを
目指す

方向性

高齢者福祉

心の問題や孤立の解消

- 課題
- 寂しさ、孤独感を抱えている
 - 孤独死が心配
 - 独居高齢者や要介護認定の無い方への対応が自治会によって異なる

取組内容

安心安全
カードの活用

5年後の目標

カードを配布し定期的に
内容を見直す仕組みができる

安心安全カード…困った時の相談先や、緊急時の連絡先を一覧表にまとめた用紙のこと

地域の中での
つながり・
支援体制づくり

5年後の目標

地域で何でも相談できる体制
ができる

方向性

ふれあい・いきいきサロンの充実

- 課題
- サロンなど、高齢者の集まる場所が無い
 - サロンの参加者が固定化している
 - サロンの世話人（後継者）がいない

取組内容

サロンの増加

5年後の目標

全自治会にサロンができる

世話人の
活動支援

5年後の目標

次の世代に世話人を
引き継ぐことができる

サロン同士の
交流促進

5年後の目標

地区をブロック分けし、
ブロックごとに交流・
サポートする体制ができる

方向性

子どもの福祉

通学路等の安全確保

- 課題
- 通学路に草が多い、危険な建物がある
 - 通学路の安全確認活動が不十分（形式的になっている）
 - 交通安全指導員が不足している

取組内容

危険箇所の
把握

5年後の目標

地区内の危険箇所を
地区全体で共有できる

危険箇所への
対策

5年後の目標

把握した危険箇所への
対策を行い、結果を
毎年モニタリングできる

方向性

子どもの地域活動への参加促進

- 課題
- 行事やイベントの継続、継承ができるか心配
 - 祭りやその他のイベントに子どもの参加が少なく、大人だけの行事になっている
 - 自治会と子ども会との連携した活動が不十分

取組内容

既存の行事や
イベントへの
参加促進

5年後の目標

子どもが興味・関心を持ち、
皆が参加できるイベントが
定着する

子どもへの
啓発や情報発信

5年後の目標

地域活動の情報発信に
小・中学校のメールを
用いることが定着する

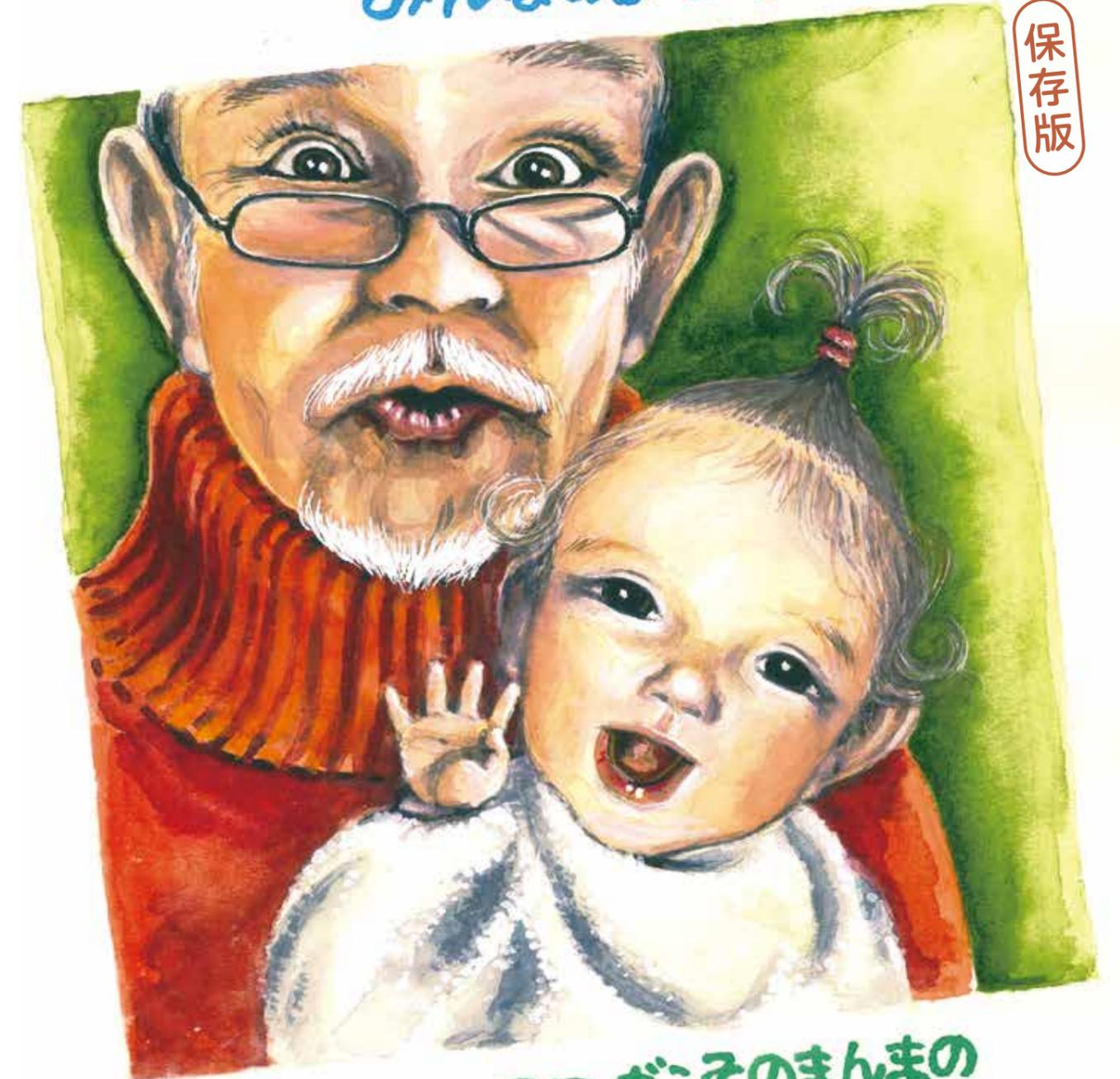
子どもの
居場所づくり

5年後の目標

子ども達が安心して
過ごせる場を充実させる

明るいまち・元気なまち みんなのまち 啓成

保存版



啓成地区はスロガンそのまんまの 明るい元気なまちです

福祉のまちづくり
プランってなに？

Q

A

住民同士がそれぞれの想いや知恵を出し合いながら、地区内の「福祉のまちづくり」を考えます。話し合う中で共通の認識や目標をつくり、具体的な住民活動を計画として明らかにするものです。

なぜ必要なの？

Q

A

誰もが暮らしやすいまちとは「公的なサービス」と「住民同士の助け合い」の両方が充実しているまちです。昨今の福祉課題に対して、公的なサービスだけで全ての解決はできません。地域にはすでに住民同士の様々な助け合いの活動がありますが、それらが計画的に進むために、また足りない仕組みを補うために、地区全体として「住民同士でできること」を計画にまとめることで、誰もが暮らしやすいまちづくりに繋がります。

どうやって
作ったの？

Q

A

啓成地区の住民の代表者で「地域福祉推進委員会」を立ち上げ、米子市社会福祉協議会と一緒に策定しました。住民意識アンケート調査などで寄せられた福祉課題をもとに話し合いを重ね、計画のテーマを「防災防犯」・「高齢者福祉」・「子どもの福祉」の3点に決定し、それぞれに分科会を作って取組内容を決めました。また、各分科会で共通課題として挙げられた「情報共有」については、分科会代表者で取組内容を検討しました。

啓成地区のみなさんへお願い

誰もが暮らしやすいまちをつくるためには、この地区に暮らす一人ひとりの気持ちが大切です。本書を手にとられたことをきっかけに、地域の活動に少し目を向けてみてください。もしかしたら、あなたが「あたりまえ」と思っている日常の景色のなかに、啓成地区のために頑張っている人や活動の存在に気づくかもしれません。そうした活動に関心をもっていただき、ここに書かれている取組に協力していただければ幸いです。

表紙のイラストは、啓成公民館文化部長 大平英雄（おおひらひでお）さんに描いていただきました。この啓成地区福祉のまちづくりプランの内容を読まれ、これからも啓成地区に住む誰もが明るく元気に暮らしていくことができるようにと心を込めて描いてくださいました。

啓成地区 福祉のまちづくりプラン

策定 啓成地区 地域福祉推進委員会

連絡先 啓成公民館 ☎0859-33-9075

編集発行 社会福祉法人 米子市社会福祉協議会

※本書に掲載しているイラストの無断複写・転載を禁じます。